

「めあて—まとめ・振り返り」の徹底を通じた授業改善の取組
～西部地区全ての先生による日々の授業づくり～

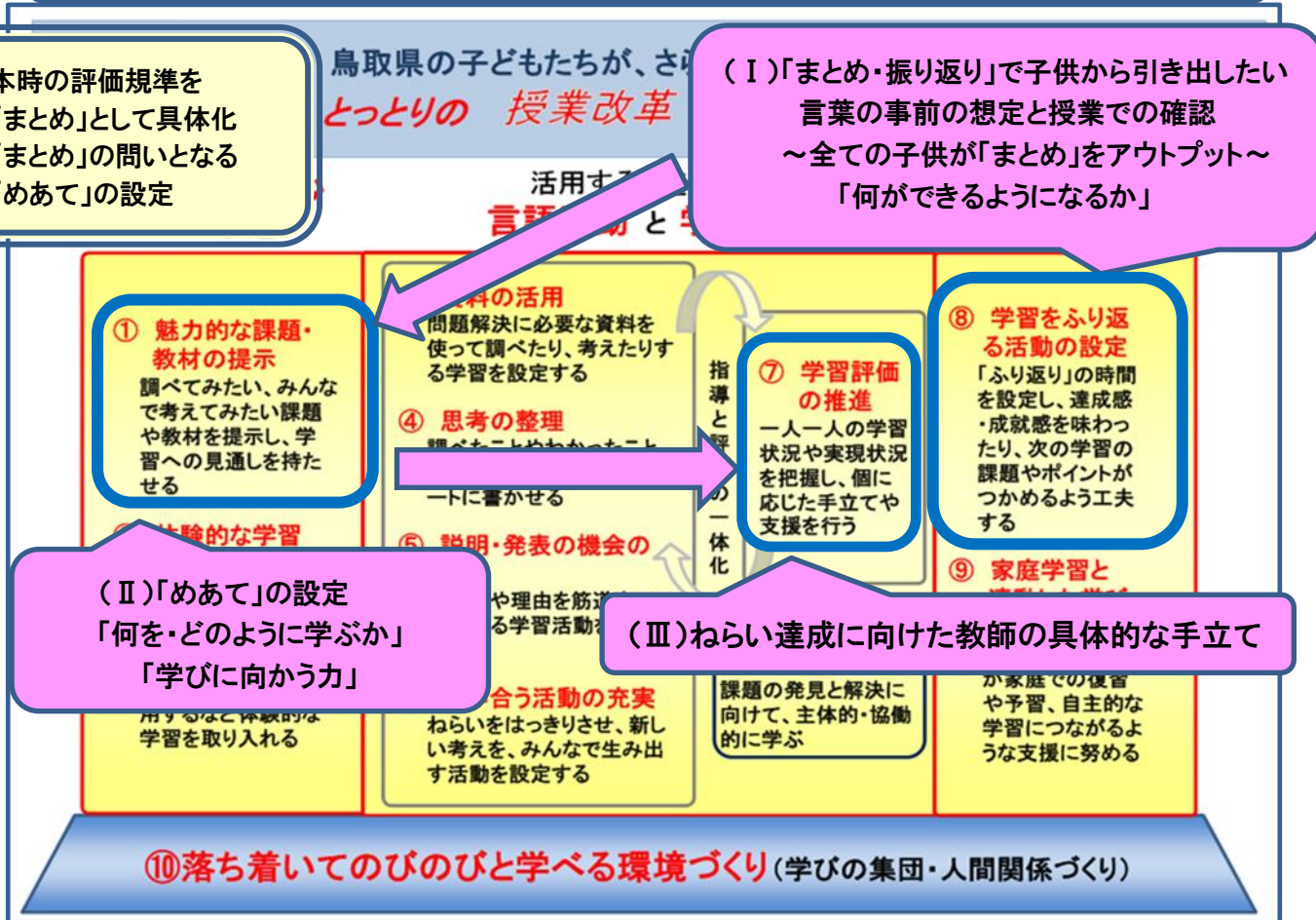
学力向上については、各地域の施策に基づいた取組や各校における実態に応じた課題解決の取組が熱心に進められているところです。その一方、全国学力・学習状況調査においては、数年来にわたり課題が見られる実状もあります。そこで、子供たちの学力保障のため、次なる方策について、市町村教育委員会と県教育委員会で協議(別紙参照)を行い、全ての先生で「めあて—まとめ・振り返り」を生かした授業実践を徹底することで、学力向上を図ることになりました。この取組は、既存の取組を否定するものではなく、全ての授業づくりのベースとなる取組です。子供の主体性を引き出し、指導内容の確実な定着を図る授業を全ての先生によって実践化することで、子供たちの学力向上を実現していきましょう。

全ての先生が子供たちの学力向上のために、日々取り組む授業づくり【10の視点】

- ① 本時の評価規準を「まとめ」として具体化
- ② 「まとめ」の問いとなる「めあて」の設定

鳥取県の子どもたちが、さ
とつとりの **授業改革**

(I)「まとめ・振り返り」で子供から引き出したい言葉の事前の想定と授業での確認
～全ての子供が「まとめ」をアウトプット～
「何ができるようになるか」



① **魅力的な課題・教材の提示**
調べてみたい、みんなで考えてみたい課題や教材を提示し、学習への見通しを持たせる

④ **思考の整理**
調べたこと、考えたこと、考えたことをまとめる

⑦ **学習評価の推進**
一人一人の学習状況や実現状況を把握し、個に応じた手立てや支援を行う

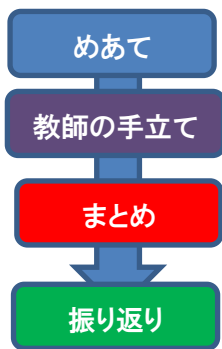
⑧ **学習をふり返る活動の設定**
「ふり返り」の時間を設定し、達成感・成就感を味わったり、次の学習の課題やポイントがつかめるよう工夫する

(II)「めあて」の設定
「何を・どのように学ぶか」
「学びに向かう力」

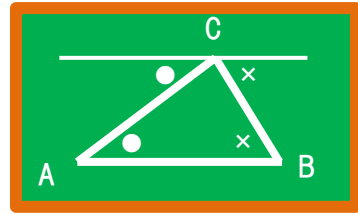
(III)ねらい達成に向けた教師の具体的な手立て

⑩ **落ち着いたのびのびと学べる環境づくり**(学びの集団・人間関係づくり)

めあて—まとめ・振り返りの関係性【例中学校2年生数学科】



平行線の性質を使って、三角形の内角の和が180度であることを説明しよう。
※子供が自己評価できるめあてを設定



頂点Cを通り、底辺ABと平行な線をひく。平行線の錯角は等しいので三角形の内角の和は180度になる。

※「分かったこと、できたこと、考えたこと」等を子供自身が自覚的に書く・話す場